鹿児島県理学療法士連盟広報紙　**Propulsion**　令和4年9月号

7月に行われた参議院選挙は非常に残念な結果となりました。現在、なぜこのような結果になったかという分析は進んでいると思いますが、鹿児島県理学療法士連盟としては各連盟役員から今回の選挙を振り返って頂きました。
皆さんは、今回の選挙、そしてこれからをどのように考えますか。

会長　村山　芳博

こんにちは。
まずは皆様に、今までのご協力に衷心より感謝申し上げたいと思います。
いろいろとご尽力いただき本当に有難うございました。
この執筆は7月14日時点にて、まだ気持ちの整理がついていない所ではありますが、前を向く為にも自分に向けてのメッセージも含めて書かせて頂きます。
今回、全国選対本部副本部長として動きました。あと各都道府県で10票ずつ上乗せができていたら・・・、悔いが残らないくらいに全国に向けての連絡・発信はしてきたつもりですが、どこかに「いけるかも」という安心感があったかもしれません。これほど、１票の重みを感じた瞬間は無かったです。
ただ、次に向けての取組みに関して、今回から初めて「学生さんに関して全国で『出張講義』をさせて頂き、約6.000人の方が聴いてくれました。今までに無い画期的な取組みです。また、SNS、LINE等に関しても、全国でまだまだではありますが、これからに繋がる基礎固めができたのでは、と考えます。
大事なのは、選挙前だけではなく、もう今からでも、それらの情報共有や啓発活動を続けていく事だと思っています。
田中先生・小川先生と2連敗した結果に関しては、正直、非常に重い責任を感じています。選対本部・後援会・九州ブロック・県連盟等に関して、本当に周りの皆様は頑張って下さいました。が、私の力不足にて結果を出せなかった事、誠に申し訳ありませんでした。
しかし、私達のため、私達を必要として下さる方々のため、この活動を止める訳には参りません。皆様におかれましては、今後ともご理解・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

副会長　岩森　俊

鹿児島県理学療法士連盟副会長の岩森でございます。
まず、第26回参議院選挙に関しまして、お力添えいただきました皆様、誠にありがとうございました。皆様のご支援をいただき118222票という得票をいただきましたが、残念な結果となりました。
この結果はもう覆すことはできません。
ですので、私たちがどのようにこの結果を受け止めるかで理学療法士の未来が変わってくると思います。この選挙は2025年の地域包括ケアシステムの構築、またその前の2024年の医療保険・介護保険同時改正に向け、重要な選挙だったという事は間違いありません。この時期に国政に理学療法士の議員がいないということは非常に厳しいことだと考えます。まだ振り返りや反省点をまとめている段階であり、今後についてはここでお示しすることが難しい現状ですが、理学療法発展において、政治活動・選挙活動は職能団体である限り必須であり、歩みを止めてはいけないものでございます。
選挙後、様々なご意見や激励の言葉もいただいており、しっかりと受け止めて参りますので、今後、皆様におかれましても私ども理学療法士連盟の活動について今一度ご理解をいただき、今後ともご支援、ご協力を何卒宜しくお願い致します。

特集　第26回　参議院議員選挙を振り返って
小川かつみ候補に託した
118,222票を無駄にしないために

事務局長　赤﨑昭朗

今回の参議院選挙、コロナ禍という状況の中での選挙応援、ご協力ありがとうございました。

組織代表を失ったことで各方面での影響は、今後甚大なものがあると予想されます。しかしこの悔しさを多くの方々と共有でき、そのことを糧に前に進もうとしている姿を見て役員・会員が共通の認識で同じ方向を向けているのであれば、新しい道は必ず開けていけると思います。選挙を通じて国会議員、県議会議員、市町村議会議員やOT・ST・義肢装具士組合など関係団体との連携や協力体制を図れたことは、今後の活動においてもその意義は大きいと思います。

こ　れからも会員の政治への無関心打破と、選挙アレルギー等の各施設における温度差軽減、啓発方法の改善、各地区での活動強化、また協会との連携強化などの課題を克服して共に頑張っていきましょう。

女性局長　赤﨑　知子

私は前回の田中先生の選挙の時から女性局長として連盟の活動に携わらせて頂いております。正直申しますと、当時は右も左もわからず、言われたことをそのまま伝えて実行するといった感じでした。

それに比べ今回の選挙は、多少なりとも政治力の必要性や選挙活動を理解したうえで、取り組むことが出来たと思っておりました。それだけに結果のショックは大きく、「もう少しこうしていたら・・」「ああやっていれば・・」と、タラレバの世界で数週間を過ごしました。そのような中、７月末に青年局主催の青年代の集いにて、参加者の熱い思いや様々なご意見を拝聴させていただき、ようやく次に向けて前に進もうという区切りができました。参加者の皆様ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

ここから先はあくまで私の個人的な反省と今後の活動に関する思いです。

今回の選挙では、LINEやInstagram等多くのSNSが利用されましたが、その登録者は決して多くはなく、特にInstagramでは女性局企画のイベント投稿も行われましたので、女性局長としてもっと広報する必要がありました。また、外向きに発信するだけでなく、政治や選挙に関する疑問やご意見を吸い上げ、内に返すことも不足していたように思います。そして国民のための理学療法士であるなら、その多くの国民にも応援いただけるような活動にしていく必要もあるのではないかと考えます。

また、あちらこちらから聞こえてくる政治や選挙に対する理解・思いの温度差についても、関心をもって下さる方が少しでも増えるように、活動・ご協力してくださる方が理解を得られやすいように・・・。具体的な方法はこれから模索していかなければなりませんが、何らかの活路を見出すべく、皆様のご意見やご協力をいただけますと幸甚に存じます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

組織局長　湯地　英充

今回の選挙を振り返り、組織局として「現場に意見を伝えられていない」という厳しいご意見を多々、頂きました。言い訳にしかなりませんが、地域の中心となるべき組織局がコロナによる活動制限でほぼ、機能していなかったことは反省の言葉しかございません。

ただ、今回の敗戦において過去（10年前）から現在の政治活動を通して、私なりに理学療法士を振り替り確認できたことがありました。それは理学療法士がただの資格でしかないということです。名称独占資格である以上、他団体や多職種からの圧力によって自分達の資格（立場）は如何様にも制限を受けます。そして自分たちの立場を守るために何が必要か？最終的には法律であり、立法府である国会に自分たちの技術や研究を伝えるための代弁者を送ることです。自分たちの地位を守るためには「職能力と臨床力」が力を合わせなければなりません。職能力として政治を否定できないことは我々が法律に縛られているばかりではなく、法律に守られている側面を持っているからです。今後、理学療法士が自分たちの職域を拡大するためには組織代表を政権与党に送り出すことが絶対に必要であり、それは地域で活動する上においても目の前の患者や対象者と向き合うことにも繋がります。

自由や個性を重んじる風潮のなかで時代にそぐわず格好がわるいかもしれませんが、理学療法士の自由や個性を守るために集団で一致団結することの重要性を考えるには十分な敗戦だったと思います。
個の力では立ち向かえない大きな壁もあります。ぜひ、皆様のお力をお貸しください。

よろしくお願い致します。